

# 沖縄語 かわら版

## 沖縄語を話す会会報

第2号

2004年6月30日発行

会長 城間 朝昌

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-s8@lime.ocn.ne.jp 國吉 眞正



沖縄タイムス 2001年12月12日 「遊び庭」から

「<sup>おきなわ</sup> <sup>ご</sup> <sup>はな</sup> <sup>かい</sup> <sup>ちち</sup> <sup>たけーんあち</sup> <sup>びんちよーい</sup> <sup>しながわ</sup> <sup>あーさき</sup>  
沖縄語を話す会」 月に二回集まてぬ勉強会、品川ぬ大崎をて

- ・ <sup>おきなわたいわ</sup> 沖縄対話-----山路安清
- ・ <sup>うとー</sup> <sup>ちゅい</sup> 御父ぬ一人ゆんたく-----野原ツル子
- ・ <sup>うちなー</sup> <sup>くちちか</sup> 沖縄口使やびら-----伊佐トミ子
- ・ <sup>たましえ</sup> <sup>うちなー</sup> <sup>ちゅ</sup> <sup>にー</sup> 魂ー沖縄ん人(2)-----新垣清松
- ・ かぎやで風節----- (y)
- ・ <sup>いくさうわ</sup> <sup>がっこー</sup> 戦終てちゃーきぬ学校-----國吉(眞)
- ・ <sup>じむきょく</sup> 事務局から

西暦1866年(しんはっぴゃくるくじゅーるくに

ん)(慶応2年)生まれぬ我達たんめー西平賀福翁が

14ぬ歳ぬ時分廃藩ぬあて、県庁や大和口習一す

んち「沖縄対話」んて言う書物作とーいびーん。

我達んうり使て勉強さびたしが、今ぬ言葉とーゆか

い変わて、難さいびーたん。

うぬたんめーや、土ぬ「嗜み」どっし、新聞ど

が四書(大学、中庸、論語、孟子)読だい墨習一

さい、唄三線しみしえーたくど、大和口ん解て一居み

しえーたんて、思やびーしが、使いみしえーびらんたん。

我んにん時々ー「たんめーさい。鼻緒ぬ切りやび

たくど付きて呉みそーれー。」どか、中学生成てか

らー「漢文習いが来やーびたん。」て言ち、沖縄口び

けーんっし話そーいびーたん。

今考ーいねー、我達ん学校をて英語一習てん、う

らんだーとー話ーしーゆーさん事ど似ちよーいび

ーさ。

やいびーしが、大正九年我ん女ぬ親ぬ、今ぬ和

洋女子大卒業さる時に、たんめーや我ん女ぬ親迎

ーいるたみ胴一人っし羽織・袴着ち、パナマ帽被て

大阪商船っし三夜四日かかて神戸までめんそーち、

うぬ後汽車っし東京んかいめんそーちよーいびー

ん。

大和口使いみそーらんたるうぬたんめーや、如何ん

如っし船乗たい、汽車ぬキップ買たいしみそーちや

がやーんて思やびーん。

東京をて一、親子まじゅんあまくま見物そーみし

えーびーん。

家んかいカンカン帽んあいびたくど、洋服ん着みそ

ーちやがやーんて思やびーん。

御清明どか七月ねー、系ーかぬ達ぬ集まて活計

うさがいがちーなぬ話一、諸沖縄口やいびーたん。

「女あてなしぬ筆持ちゆし知らん五ち指形

ぬ御状ぬ印」んて言う琉歌ぬ如、我達はんしー達

ぬ時分一、女一学問しえー成らんて言らつとーいび

ーたくど、沖縄口ぬ暮らしそーみしえーびーたん。

明治十八年女ん子ぬ小学校んかい通いる前や、

「沖縄対話」や男びけーんっし、使てど居たがやー

んて思やびーさ。

\*\*\*\*\* ~ \*\*\*\*\*

沖縄字(と、て、で、・・・)にちて一、終わ

いぬページ見ち御賜みしえーびり。沖縄字使て会報

作やびたん。読み易さんて思とーいびーしが、如何

ぬ風儀やいびーたがやー。御所な一御考一聞かち御

賜みしえーびり。

大和字組み合ち書ちーねー、読むしが難さいびー

しが、くぬ沖縄字や組み合しえーさん如一字さーに

か書ちやびーん。読み慣りーねー便利な物やいびーくと、

くぬ号ん続きて読て御賜みしえーびり。

うとー ちゆい  
御父ぬ一人ゆんたく 野原ツル子（練馬区）

わたたーうとー いっぺーさきじょーぐー  
我達御父や一杯酒上戸やいびーたん。

めーゆるあーむい  
毎夜泡盛うさがみそーち、あんまー分かし物小うさ  
がいがちーなー、ゆんたくそーみしえーびーたん。

わ ちちどちえ うやこーこー うとーえーぐー かんかし  
我んねー時々ー親孝行ぬために、御父相手っし昔

ばなし ち  
話聞ちやいそーいびーたん。

やがて、さーふーふー小しみしえーいねー、ちゃー口  
から出じーる琉歌ぬあいびーたん。うれー下ぬ歌や  
いびーん。

「さき ちむ じょ ぬ  
酒や肝ぬ門ぬ さしぬがやゆら 飲みば飲む

ふどに 開ち行ちゆさ」

わ ねーさけ ぬ ぬ さきじょーぐー くちえ  
我んねー酒ー飲みゆーさびらんしが、酒上戸ぬ心地

わが  
一解いんねーさびーん。

わか じぶん ゆ ち なま  
若さる時分に良ー聞かさつとーいびーたくど、今ち

きてわし くらん、わ くる ぬく  
きて忘らん、我ん心んかい残とーいびーん。

またぬーちえ ねーん、うぬ歌ー好ち成とーいびー  
ん。



うちなーぐちちか  
沖繩口使やびら 伊佐トミ子（那覇市）

うちなーぐちね  
沖繩口無ーんなちえー成らんで言ち、近頃ーテレ

ビ、ラジオ、学校んじん気掛きて使いる如成とーい

びーしが、御所なー達「沖繩語を話す会」や大和を

じゅーにんあま うちなーぐち ふか じぶん じぶん なれ ゆ  
て、十年余い沖繩口ぬ他、うぬ時分時分ぬ習一、寄し

ぐど びんちよー い  
言までん勉強そーみしえーんで言みしえーくと、ふい  
るまさそーいびーさたい。

んかし うちなー くとば へん ちゆくに すた ななくに  
昔ぬ沖繩ぬ言葉なかい「生まりー郷 育ちや七郷」

んちあいびーくと、遠さ沖繩離りとーでん、くりか

あと ちぢ  
ら後ん続きみそーりよーたい。

うんじゅ たー とーちよー し  
御所なー達や東京んかい住まとーみしえーびでん、

うちなー くとゆ し たー な  
沖繩ぬ事良ー知つちよーみしえーしが、誰がん成い  
るむのーあいびらんどーたい。

ちち は へんま は い  
月ぬ走いや馬ぬ走いんで言ち「あね！」んで言る

へーだ ぬーびー た ちぬー くと うむ わらび  
間に日日ぬ経つち、昨日ぬ事んで思やびーしが、童

ぬ時分我達あんまーや「平生から『言葉銭遣一』ん

ちあくど、細ーきて良ー使りよー」んで言ち習一し

みしえーたくど、今ちきて子孫ぬ達んかい、うん

なくど話そーいびーん。

くとば やーにんじゅ どし ちやー ちか うび  
言葉ー家人衆どか同土ぬ達と使でど覚やびーくと、

ぬーじゅ うちなーぐちちか ぐどちが な  
平生からなるびち沖繩口使いる如気掛きらんねー成  
いびらんさたい。

いるいるか ゆ ぐり  
色々書ちやびたしが、読み苦さるとくるんあいび

て御無礼さびたん。くねーて呉みしえーびれー。



くとば じんぢけ  
「言葉銭遣一」：言葉は銭と同じように使い方によって自分や  
社会を益することができる。従って、言葉は高い価値を生むように  
使わねばならない。 出典「沖繩の黄金言（有）沖繩総合図書」



えーいねー、生徒<sup>しーど</sup>ぬ<sup>ちゃー</sup>達<sup>ちよーみぬ</sup>や帳<sup>か</sup>面<sup>うつ</sup>んかい書<sup>か</sup>ち写<sup>うつ</sup>ち、あ  
んしから先生<sup>しんしー</sup>どまじゅん<sup>くーん</sup>声<sup>ゆ</sup>出<sup>ゆ</sup>じゃち読<sup>よ</sup>どーいびーた  
ん。

うんにーねー、「読み方<sup>よ</sup>と算数<sup>かた</sup>」ぬどあいびて、うり  
やか<sup>あーて</sup>上手<sup>びんちよー</sup>ぬ勉<sup>ね</sup>強<sup>あみ</sup>や無<sup>ふ</sup>ーびらんたん。雨<sup>あみ</sup>ぬ降<sup>ふ</sup>いねー勉  
強<sup>ちよー</sup>や成<sup>な</sup>いびらてーくど学校<sup>がっこー</sup>や憩<sup>ゆく</sup>いやいびーたん。

さん<sup>さん</sup>にんしー<sup>な</sup>三年<sup>かやぶちやー</sup>生成<sup>で</sup>てからよーやく茅<sup>ゆ</sup>葺<sup>にんしー</sup>家<sup>な</sup>ぬ出<sup>き</sup>来<sup>ゆ</sup>て、四年<sup>ゆ</sup>生<sup>にんしー</sup>ま  
んぐる成<sup>な</sup>てからど書<sup>すむち</sup>物<sup>ち</sup>んあいびーたる。

わたた<sup>わたた</sup>ー<sup>しよー</sup>がっこー<sup>じだえ</sup>一<sup>く</sup>五<sup>る</sup>～<sup>く</sup>六<sup>にんしー</sup>年<sup>な</sup>生<sup>うさじ</sup>成<sup>くさ</sup>いねー、兎<sup>うさじ</sup>ぬ草<sup>くさ</sup>  
取<sup>と</sup>て来<sup>ち</sup>やい、ふー<sup>ふ</sup>じゃー草<sup>くさ</sup>刈<sup>か</sup>たい、うりからたむん取<sup>と</sup>  
い<sup>い</sup>が行<sup>く</sup>じやいっし家<sup>やー</sup>ぬてがねーどする、田<sup>いな</sup>舎<sup>な</sup>んじえー

何<sup>ま</sup>処<sup>わらび</sup>ぬ童<sup>ちやー</sup>ん達<sup>びんちよー</sup>ん勉<sup>びんちよー</sup>強<sup>な</sup>やさびらんたん。勉<sup>な</sup>強<sup>わらび</sup>んで  
ーしーねー、呪<sup>ぬら</sup>ーりーる世<sup>ゆー</sup>やいびーたん。今<sup>なま</sup>ぬ童<sup>わらび</sup>ん  
達<sup>ちやー</sup>ぬ如<sup>くど</sup>っし「勉<sup>べんきょう</sup>強<sup>きょう</sup>しなさい」んて言<sup>い</sup>らつたる事<sup>くど</sup>ー無<sup>ね</sup>  
ーやびらんたん。

わたた<sup>わたた</sup>ー<sup>あなく</sup>うや<sup>うや</sup> びんちよー  
我<sup>わたた</sup>達<sup>あなく</sup>女<sup>うや</sup>ぬ親<sup>びんちよー</sup>ー勉<sup>うや</sup>強<sup>びんちよー</sup>すしえー、くしさびらんたし  
が、ちゆけ<sup>どない</sup>ー隣<sup>わらび</sup>ぬ童<sup>ちやー</sup>ん達<sup>がっこー</sup>や学校<sup>がっこー</sup>んかえーふっちー  
ぐしーど行<sup>い</sup>かりーる、家<sup>やー</sup>ぬてがねーさねー成<sup>な</sup>らんくど、

毎<sup>めー</sup>日<sup>にちがっこー</sup>学校<sup>い</sup>んかい行<sup>い</sup>ちゆんて言<sup>ゆ</sup>しえー難<sup>むちか</sup>しー事<sup>くど</sup>やい  
びーたん。あんし異<sup>い</sup>風<sup>ふー</sup>な世<sup>ゆ</sup>ぬ中<sup>なか</sup>やいびーてーるやーん  
て思<sup>うむ</sup>やびーん。何<sup>ま</sup>処<sup>わらび</sup>ぬちねーん貧<sup>ふんすー</sup>相<sup>すー</sup>そーいびーたく

ど、中<sup>ちゆー</sup>学<sup>がく</sup>卒<sup>そつぎよー</sup>業<sup>そつぎよー</sup>っしからー、上<sup>あー</sup>ぬ学<sup>がっこー</sup>校<sup>がっこー</sup>んかい行<sup>い</sup>ちゆ  
んて言<sup>ゆ</sup>しえー大<sup>でーじ</sup>事<sup>くど</sup>な事<sup>くど</sup>やいびーたん。

うんにーねー、上<sup>あー</sup>ぬ学<sup>がっこー</sup>校<sup>がっこー</sup>やハイ<sup>あー</sup>ス<sup>がっこー</sup>ク<sup>がっこー</sup>ール<sup>がっこー</sup>んて言<sup>い</sup>ちよ  
ーいびーたしが、我<sup>わたた</sup>達<sup>ちゆー</sup>が中<sup>ちゆー</sup>学<sup>がく</sup>卒<sup>そつぎよー</sup>業<sup>そつぎよー</sup>するまんぐるか

らー高<sup>こーとー</sup>等<sup>がっこー</sup>学<sup>がっこー</sup>校<sup>がっこー</sup>んて言<sup>い</sup>びたん。うぬ高<sup>こーとー</sup>等<sup>がっこー</sup>学<sup>がっこー</sup>校<sup>がっこー</sup>んかい行<sup>い</sup>  
ちゆしえー、我<sup>わたた</sup>達<sup>あざ</sup>字<sup>くー</sup>ー小<sup>しち</sup>さいびーたしが、七<sup>しち</sup>人<sup>にん</sup>中<sup>ちゆー</sup>学<sup>がく</sup>

卒<sup>そつぎよー</sup>業<sup>そつぎよー</sup>っし、ちん<sup>たい</sup>ど二<sup>に</sup>人<sup>にん</sup>どやいびーたる。我<sup>わ</sup>ん<sup>わ</sup>どな  
一<sup>ちゆえ</sup>人<sup>あなく</sup>ー女<sup>あなく</sup>やいびーたん。戦<sup>いくさう</sup>終<sup>いくさう</sup>わていーくる十<sup>じゆー</sup>年<sup>にん</sup>成<sup>な</sup>  
とーいびーたしが、我<sup>わたた</sup>達<sup>あざ</sup>やか五<sup>い</sup>ちびけーん歳<sup>とし</sup>上<sup>あー</sup>ぬし

ーじゃん<sup>ちやー</sup>達<sup>ちゆー</sup>や、中<sup>むるん</sup>学<sup>ん</sup>諸<sup>くど</sup>出<sup>むちか</sup>じらりーる事<sup>くど</sup>ー難<sup>むちか</sup>しー  
事<sup>くど</sup>やいびーたん。戦<sup>いくさう</sup>終<sup>いくさう</sup>わていーちや<sup>がっこー</sup>ーけー、学<sup>がっこー</sup>校<sup>がっこー</sup>んかい行<sup>い</sup>  
ちゆんて言<sup>ゆ</sup>しえー大<sup>でーじ</sup>事<sup>くど</sup>な事<sup>くど</sup>やいびーたん。

あんすくと、今<sup>なま</sup>イ<sup>い</sup>ラ<sup>ら</sup>ク<sup>く</sup>んじ<sup>いくさ</sup>戦<sup>いくさ</sup>んかい、は<sup>は</sup>っ<sup>っ</sup>ち<sup>ち</sup>や<sup>や</sup>か<sup>か</sup>と  
ーる童<sup>わらび</sup>ん<sup>ちやー</sup>達<sup>くど</sup>事<sup>くど</sup>考<sup>かんげ</sup>ーいねー肝<sup>ちむ</sup>病<sup>や</sup>ぬ滅<sup>な</sup>いびらん。

### 事務局から

創刊号発行の際は貴重な原稿を頂き有難うございました。  
三ヶ月経つのが早いもので、第二号を発行する事になりました。今回は那覇市在住の伊佐トミ子さんから原稿を頂戴しており、感謝申し上げます。

創刊号でお知らせしましたように、この会報は沖縄語に関心を持つ方であれば会員以外の方でも書くことが出来ます。どうぞ遠慮なく送って下さい。

勉強のため、出来るだけ沖縄語で書いていただきたいのですが、共通語の原稿は沖縄語に書き替えさせていただきます。  
原稿は趣旨を変えないで手直しをする場合があります。

この会報では沖縄語の発音を正しく表記するのに便利な沖縄文字を採用して編集しております。沖縄文字に慣れるまでは、沖縄文字への変換は事務局で行います。

また大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。

お問い合わせ  
事務局 國吉 真正 電話044-988-8065  
FAX 044-988-8065

## 第二号

語句の説明（中縄語辞典、広辞苑による）

ゆかい：かなり。相当。

びけーん：ばかり。

うらんだー：西洋人。

めんしえーん：いらっしゃる。おいでになる。いる・行く・来るの敬語。

まじゅん：一緒（に）、共（に）

あまくま：あちこち。あちらこちら。

系ーか：親戚。親類。

活計かつぎ：ごちそう。

うさがいがちー：召し上がりながら。

はんしー：おばあさん。那覇の土族の祖母。

御賜うたまひみしえーびり：下さいませ。

如何ちやぬ風儀ふうぎ：どのように。

ゆんたく：おしゃべり。

さーふーふー：ほろ酔いのさま。一杯機嫌のようす。

ちゃー：いつも。

さーしぬしぬつつ：鍵。錠前に差し込むもの。

心地こころ：気持。気分。心地。

今いまちきちき：今になっても。

何なにんんちえちえ無なーんん：何ということない。何という理由はない。

気掛ちがきゆん：精出す。励む。

寄よし言ご：教訓。忠告。

ふふるまさん：不思議である。

あんまー：母。おかあさん。

細くめーきゆん：つつましくする。儉約して質素に暮らす。

なるびち：なるべく。

くねーゆん：こらえる。我慢する。

ちねー：家庭。家族。

あぎまーすん：せきたてる。

いちゆく：いとこ。

手てがねー：手伝い。加勢。

面おもーりきさん：面白い。楽しい。

なんくる：ひとりでに。自然に。

正物せいぶつ：本物。大事な物。

いぬ物いぬぶつ：同じ物。

うんにーに：そのおりに。その時に。

終わうりちゃーき：終わってすぐ。

まんぐる：ころ。おおよそその時を示す。

ふーじゃー：やぎ。

たむん：たきもの。たきぎ。

くしすん：嫌う。

ちゆけー隣とない：隣近所。

ふふっっちーぐしー：一日おき。隔日。

異風いふうな世よぬ中なか：変な世の中。

ばーくる：大よそ。大かた。大体。たいてい。

しーじゃ：年上（の者）

はっはちちゃかゆん：出くわす。

肝病ちむやむん：心を痛める。

# 沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と [tu] 　とーい(鳥) 　うと(音) 　みーと(夫婦)	と [hwe] 　とー(南) 　にとーでーびる(有難うございます)
と [to] 　とーふ(豆腐) 　とーばる(桃原)	へ [he] 　へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど [du] 　どし(友人) 　やど(宿) 　どー(自分)	や [ʔja]* 　やー(君、お前) 　やん(言わない)
ど [do] 　どーぐ(道具) 　まんどーん(たくさんある)	や [ja] 　やー(家) 　やん(である)
て [ti] 　てーち(一つ) 　てーだ(太陽) 　てん(空)	ゆ [ʔju]* 　ゆん(言う)
て [te] 　てーく(太鼓) 　てーしち(大切)	ゆ [ju] 　ゆんたく(おしゃべり)
て [di] 　ふて(筆) 　ぬーてー(喉) 　てきやー(秀才)	よ [ʔjo]* 　よーいー(おさな子)
で [de] 　でーじ(大変なこと) 　ちょーでー(兄弟)	よ [jo] 　よーんなー(ゆっくり)
か [kwa] 　かじ(火事) 　かっちー(ごちそう)	わ [ʔwa]* 　わー(豚) 　わーちち(天気)
か [ka] 　かじ(風) 　かんない(雷) 　かーま(遠方)	わ [wa] 　わーむん(私のもの)
か [gwa] 　にんかん(念願) 　かんく(頑固)	わ [ʔwi]* 　わー(上) 　わーりきさん(面白い)
が [ga] 　がんちょー(眼鏡、めがね) 　しがた(姿)	わ [wi] 　わきが(男) 　わなぐ(女)
き [kwi] 　かー(声) 　さっかー(咳) 　かゆん(呉れる)	き [ʔwe]* 　きーきー(金持ち) 　かんちゆ(ねずみ)
き [ki] 　きー(木) 　きゆん(蹴る) 　きぶし(煙)	き [we] 　ういきー(お祝) 　わじゃきー(災い)
か [gwi] 　かーく(越来「地名」)	ん [ʔN]* 　んみ(梅) 　んに(稲) 　んなじ(うなぎ)
ぎ [gi] 　かーぎ(容ぼう)	ん [N] 　んに(胸) 　んみ(嶺井「地名」) 　んなど(港)
か [kwe] 　かー(鍬) 　からじかー(髪きり虫)	い [i]* 　いん(縁) 　いだ(枝)
け [ke] 　けー(かゆ) 　ちけー(使者)	い [ʔi] 　いん(犬) 　いーび(指) 　いちゆん(行く)
か [gwe] 　かったい(ぬかるみ)	ち [ʔu]* 　ちと(夫) 　ちーじ(さとうきび)
げ [ge] 　げー(害) 　にげー(願い)	う [ʔu] 　うと(音) 　うーび(帯)
か [hwa] 　かー(葉) 　なーか(那覇)	え [ʔe]* 　えーま(八重山) 　えーじ(八重洲)
は [ha] 　はる(畑) 　はぎもー(荒地)	え [ʔe] 　えーさち(あいさつ) 　えーじ(合図)
か [hwi] 　かじやい(左) 　かーと(いるか)	お [ʔo] 　おーじ(扇) 　おーさん(青い)
ひ [hi] 　ひやみかすん(えい、と言う)	を [ʔo] 　をーじ(王子) 　をーれー(往来)

[ ]内は沖縄語辞典による読み方

(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)

\* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例　とーい(鳥) ×とーい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。